

ちば里山センター 冬の野鳥観察バスツアー

コハクチョウやカモ類を沢山観たい！！

高井昭夫（四街道市）

日 時：2010年1月30日（土） 8：30～16：10
場 所：橘ふれあい公園（香取市）東庄県民の森（東庄町）
協 力：千葉県自然観察指導員協議会
参加者：42名（内 スタッフ5名）
講 師：谷 英男（主担当者） 坂本文雄 和仁道大

香取市の橘ふれあい公園と県立東庄県民の森に、冬鳥のコハクチョウやカモ類の探鳥会をバスツアーで行いました。

8:35 千葉駅前をスタートし、車中で谷さんをはじめ3名の講師から、ハクチョウに関する話やクイズをしながら、9:55 に橘ふれあい公園に到着しました。橘ふれあい公園は、ヤマユリの咲く里山として手入れされ、冬の今は、溜池にいろいろな水鳥が羽を休めており、心癒される雰囲気が感じられました。3班に分かれた参加者は、それぞれ里山を散策し溜池の水鳥を観察しましたが、水辺には、マガモ、コガモ、カルガモ、ヒドリガモ等が仲良くペアリングで泳いでおり、平和な自然風景を眺める思いでした。溜池に接する田んぼでは、農夫が耕耘機に乗って田起こしをしている後を、追いかけるようにアオサギが餌を探しており、それはなんとも微笑ましい光景でした。約45分間のウォッチングを終えて、一路東庄町の県民の森に向かいましたが、その途中、干潟八万石と称する田園地帯に寄り道し、車窓から田んぼの中で休んでいるハクチョウの群れを探しました。見渡す限り田んぼの中で、遠くに見えるサイロの横に、かすかにハクチョウの一群が観られ、期待通り発見が出来て一同安堵しました。

11:20 県立東庄県民の森に到着いたしました。班毎に公園内に入って行きましたが、入り口近くの道端に、シロハラが餌に有り付こうとして、一心不乱に枯葉を嘴で飛ばしているところに遭遇し、3班全員固唾を吞んでその様子を眺めておりました。昼食をとる時間を含めて、約1時間40分をかけて、園内にある展望台、資料館、城山・つどいの森での散策を行いました。展望台では、先程観られた田んぼの白鳥の群れを望遠鏡で探しながら、江戸時代に干拓された干潟八万石の雄大な田園風景を一望し、先人の偉大さに頭が下がる思いになりました。資料館には、園内で見られる鳥達の剥製が飾られており、芝生の広場を歩き回るハクセキレイや、乙にすまして直立姿勢でいるツグミの姿は、なんとも滑稽に見えました。城山に登ると、ヤマガラがスギの枝で観られ、ツバキの林でトラツグミを観た人もいたようでした。福聚寺の門を入ると、ロウバイが香る中シナマンサクが満開に咲いており、境内は、はや春の気配でした。

13:00 いよいよお目当てのハクチョウを観るため、眼下の夏目の堰に降りました。夏目の堰は農業用の溜池であり、ハクチョウ、カルガモ、マガモ、コガモ、ハシビロガモ、オオバン、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ等の水鳥達が沢山いて、大変賑やかな風景でした。中でも、ハクチョウが何群にもなって、池に戻ってくる姿は壮観で、華麗な航空ショーを観ているようでした。また、名前からして愛くるしいミコアイサが水の中にもぐる様子は、シンクロナイズドスイミングを可愛らしく演じているようでした。さて、ここにいるハクチョウは、人の餌付けによって2004年頃から飛来しているそうですが、それはオオハクチョウなのかコハクチョウなのか、その見極めはなかなか難しいらしく、大方はコハクチョウとの見方でした。溜池の付近の葦原にホオジロが飛び、湿地の池からカワセミが飛び出して歓声が上がリ、遠く木のとっぺんでノスリが夏目の堰を睥睨している等、野鳥をこの上なく観察でき、贅沢三昧な一日となりました。

14:25 後ろ髪を引かれながら、帰途に着きました。皆心身ともに満足した、楽しい探鳥会が無事に終わりました。3名の講師の方々、スタッフの方々、大変ご苦労さまでした。